

Title	ジョン・ベラーズ研究
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1931
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.25, No.5 (1931. 5) ,p.617(1)- 658(42)
JaLC DOI	10.14991/001.19310501-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19310501-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19310501-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新學年の紀念寫眞は  
親切で  
上手で  
廉價な  
相澤へ御用命願ひます

慶應義塾商工部御用

## 相澤寫眞館

四谷區麴町十一丁目一番地  
電話 四谷 (35) 2380  
3202

### スマートなK O制服と

紳士淑女間に

愛せらるる背廣服は

タツチ潑刺たるスタイルを調べ

萬人渴仰の完全な技術を……

芝三田四國町三ノ三

明治卅年御用 慶應義塾 中島洋服店

電話三田(45)三四八九

## 三田學會雜誌 第二十五卷 第五號

ジョン・ベラーズ研究

高橋 誠一郎

所謂マーカンチリズムの時代に在りては、經濟上殆んど一切の問題は悉く皆、外國貿易の見地より論述せられたるの觀なきに非ず。勞働及び救貧の問題も亦、特に此の觀察點より注意せられ、人民の勞働を以つて國富の源泉と看做したる第十七世紀後期の英國マーカンチリストが、主として商人的見地に立脚し、貧民の勞働を利用して、國産を發達せしめ、輸出を増加し、輸入を抑制し、金銀の流入を誘致し、以

つて彼れ等の國家を富強ならしめんことを意圖せるの事實は、吾人が曾つて本誌上に於いて論述せるが如し。三田學會雜誌第二十五卷第一號所載拙稿、近世初期の失業對策と就業權論並びに同誌第二十四卷第一號所載拙稿、初期經濟學說中に於ける『生存費勞銀說』の潜在參照。

彼れ等の中には又、國外市場に於ける自國貨物の價格は、國內に於いて是れ等のものを生産するに要する勞銀費用によつて支配せらるゝことを信じ、勞銀の騰貴は、應がて輸出品の生産費を増加し、其の輸出を妨ぐ可きものと思惟するもの存せり。斯くて英國の通商貿易の統制に銳意なりしトーマス・マンローは、吾人が曾つて引用したるが如く、前掲三田學會雜誌第二十四卷第一號一〇一一頁、勞銀を低減するが爲めに更らに有效なる法律を制定するに非ずんば、總べての生産は急速に絶滅せざるを得ずと論じ、(Usury at Six per Cent examined, 1669, p. 9.) The Grand Concern of England explained, 1673. の著者は、手工業者が其の製作に對して強請する勞銀を以つて、常に彼れ等を使用するの必要ある凡ゆる人々を惱しむること大なるのみならず、貿易に取りても亦、破壊的なるものにして、外人による我れ等の製造品の

消費を妨害するものなりと做せり。(Ibid., p. 54.) 此の如くある間は、英國は斷じて外國市場に於いて佛國と競争すること能はざるものと看做されたり。而して又、サー・ウイリアム・ハリス (Sir Walter Harris) が其の Remarks on the Affairs and Trade of England and Ireland, 1691. 中に於いて言ふが如く、貨物は少くとも吾人が佛蘭西より之れを得るに等しく低廉に生産せらるゝに非ざれば、そは總べての禁止にも拘らず、彼の地より齎さる可きものと思料せられたり。(Ibid., p. 71.) 斯くて彼れは、粗末にして低廉なる常食を以つて生活する愛蘭人の低廉なる勞働によりて生産せられたる製造品を奨励して、佛國品を排除するの得策なる所以を主張せり。ローレンス・ブラッドンは曰く、我が羊毛其の他諸原料を低率に引下ぐると、我が製造人の賃銀を、少くとも佛蘭西人及び和蘭人が同様の用途に際して支拂ふに等しき水準まで下降せしむることとは、我が外國貿易を鼓舞するが爲めに絶對に必要なことを現在の貿易の過程に於いて告白せざるを得ずと。(The Miseries of the Poor are a National Sin, Shame, and Charge, 1722, p. 18.)

賃銀にして果して労働者が其の生活を維持するが爲めに消費せざる可らざる食料及び其の他の貨物の價值より成る労働の生産費に由りて決定せらるゝものと觀るならば、賃銀率を引下げ、外國市場に於ける自國貨物の販路を擴張するが爲めには、勢ひ自國に於ける食料品の價格を低減せしめざるを得ざるが如し。斯くジャコブ・ヴァンデルリント (Jacob Vanderlint) は其の Money answers all things: An Essay to make Money sufficiently plentiful amongst all Ranks of People and increase our foreign and domestick Trade, fill the empty house with inhabitants, encourage the Marriage State, lessen the number of Hawkers and Pedlars, and in a great measure prevent giving long Credit and making bad debts in trade; Likewise showing the Absurdity of going to war about trade, and the most likely Method to prevent the clandestine exportation of our Wool, and also to reduce the National Debt and ease Taxes, 1734. に於て「労働の價格は常に必要品の價格より構成せられ、而して他物の價格は主として労働の價格より構成せらるゝ」(Ibid., p. 15.) と做すの意見に基きて曰く「吾人にして若し、常に食料及び飲料の價格より成る労働をし

て充分に低廉ならしむるに足るだけ我が充實を大ならしめんか、我が製造品及び其の他の凡ゆる物は直ちに貿易の差額をして吾人に取りて有利ならしむるまでに適度の價格を有するに至る可し」と。(Ibid., p. 43.) 彼れの意見に據れば、賃銀率の低減に由る外國貿易の擴張は、貧民をして更らに困難なる生活を送らしめ、又は彼れ等の身分相應なる欲望の要求する所よりも其の消費する所を少なからしむるに由りて行はる可きに非ずして、人民を正しき方法、即ち土地の耕作栽培に使用し、彼れ等は身分相當に其の欲望を満すを得て、而も尙ほ我が産物及び製造品をして孰れの隣邦にも劣らざる程度まで低廉ならしむるやうに廉價に勞作し得るほど、充實を大ならしむるによりて行はれざるを得ざるものなり。(Ibid., p. 69.)

然れども實際生活上に於いては、往々にして低廉なる食料は低廉なる労働を意味せずして、却つて高價なる労働を意味するの事實を見るなり。蓋し、食料の低廉なる際には、貧民は容易に其の欲望を満足せしめ得るが故に、彼れ等をして勞作せしむること益々困難と爲るが故なり。而してジョン・ハットン (John Houghton) の如きは、労働の供給を増加し、其の價格を引下ぐるが爲めに食料の價格を騰貴せしむ

るの利益を主張せり。(A Collection of Letters. Vol. iv of his Husbandry and Trade Improved, 1681-83, p. 184.)。ジョシュア・ギー (Joshua Gee) は穀物が低廉なりし際には、英國の機屋及び其の他の製造業者は其の紡績及び其の他の作業を遂行するが爲めに大なる困難を有したるの事實を認めたる旨を記せり。彼れ曰く、蓋し貧民は、二日乃至三日の賃銀を以つて、優に一週間彼れ等を満足せしむるに足る食料を購入するを得て、其の餘の日を怠惰、飲酒等に費せるが爲めなり。然るに、穀物が高價なりし際には、彼れ等は全週就業するの已むなきに至らしめられ、而して機屋等は望み得る限り最も容易に更らに多くの仕事を遂行し、而して事業に對する不斷の勤勉は彼れ等の精神を之れに傾注せしめ、斯くて彼れ等は常に食物を購入するに足る金額を有するのみならず、衣服、其の他の必需品を自ら供ふることを得て、安樂に生活するなり。(The Trade and Navigation of Great-Britain considered: shewing, that the surest way for a Nation to increase in Riches, is to prevent the importation of such foreign commodities as may be rais'd at home; that this kingdom is capable of raising within itself, and its colonies, materials for employing all our poor in those Manufactures, which we now import from

such of our Neighbours who refuse the admission of ours; some account of the commodities each country we trade with takes from us, and what we take from them; with observations on the Balance, 3rd. ed., 1731, p. 38.)。

## 三

斯くの如き時代は又一種の株式組織を以つて貧民の勞働を搾取せんとするの意見を表明しつゝある幾多の著者を出せり。彼れ等の多くは、其の發起人をして、一定年限の間救貧税の使用權を有せしめ、之れに對して總べての貧民を管理する會社を組織せしめんとするの意見を有するものなり。這般の見解を有したる最初の一人に偉大なる東印度貿易商人サー・ジョサイア・チャイルドあり。彼れは其の A New Discourse of Trade, wherein is (are) Recommended several weighty Points relating to Companies of Merchants; The Act of Navigation, Naturalization of Strangers, and our Woolen Manufactures. 1693. の第二章 Concerning the Relief and Employment of the Poor. に於いて曰く、貧民が、制御其の良しきを得たる、一都市若しくは一國家に集合するは實に富が其の都市若しくは國家に會流するに外ならず、斯くて又、伶俐なる和蘭人は、彼れ

等に來る總べての者を收容して、之れを救濟し、若しくは使傭し、敢て彼れ等が何れの國民に屬するやを穿鑿することなし、況んや彼れ等が何れの教區に屬するやを問ふに於いてあやと。(ibid., p. 64.)

チャイルドの提案は下の如し(一)倫敦及びウェストミンスター市、サズアーク<sup>バロ</sup>並に週刊死亡表 (the weekly Bills of Mortality) 中に記述せられたる總べての他の場所は議會の決議により聯合して、貧民救助を目的とする一の區域を構成し、(二)該境界内に於ける凡ゆる貧民の保護と其の財寶とを依託せられたる人々の集會並に彼れ等によりて時々任命せられ代理を命ぜらるゝ者の存在を觀る可く、(三)這般の集會は議會の決議によつて「貧民の父」(Fathers of the Poor) なる名稱若しくは他の名譽あり意義ある一定の稱號の下に組織せられ、永久に繼承せらる可く、(四)總べての警吏、教會委員、監督若しくは上述の區域内に於ける總べての教區に於ける他の役員は貧民に關する一切の事項に於いて前記「貧民の父」及び其の代理人に從屬し、又之れに對して責を負ふ可く、(五)「貧民の父」は其の貧民救助の爲めに、凡ゆる教區よりして恰も彼れ等が此の組織成立の前三年中の何れに於いても這般の目的に

對して一ヶ年に支拂へるに等しき金額を徴し、之れを其の共同金庫に收納し、又其の支拂を強要するの特權を有するを得可く、(六)前記「貧民の父」及び其の代理人は特に凡ゆる教區の教會に於いて毎安息日に於いて一度並びに敬虔なる基督教徒の凡ゆる他の集會に於いて、又彼れ等が適當と思惟す可き凡ゆる他の時に於いて慈善的寄附を收納するを得可く、(七)「貧民の父」及び彼れ等の委任を受けたる者は土地を購入し、授産所、救護所及び懲治監を設立し、之れに寄進し、且つ其の他貧民に關する凡ゆる他の權力を行使することを得可く、(八)彼れ等は彼れ等が適當と思惟する貧民を其の服務の間彼れ等の安樂なる生活に對し、又其の後に於ける彼れ等の自由に對して保證を徴し、海を越えて陛下の植民地に送るの權能を有す可く、(九)彼れ等にして有用と認めたる時は、貧民の爲めに小銀行及び貸金業 (petty Banks and Lombards) を起し、總べての劇場の木戸口に於いて支拂はるゝものゝ半額を收受し、少額の金高に對して特許狀を得、其の他苟も國王及び議會が彼れ等に委ぬるか若しくは其の擇むが儘に任すを以つて適當と思惟す可き一切の事を行ふの力を有す可く、(十)這般の目的の爲めに徴收せらる可き貨財は神聖なるものと看做され、之

れが使用を誤り、之れを隠匿し、總べて之れ以外の用途若しくは目的に之れを貸付け、又は轉用するを以つて重罪と看做し、(十二)我が獨立教派の人々(Nonconformists)を排除するの目的を以つて、上述貧民の父に對し其の加入の際に毫も宣誓若しくは其の他の考査を課することなく、(十二)凡ゆる時と凡ゆる場所とに於いて、彼れ等の權能と任務とを表示するが爲めに綠杖の外に、絶えず一定の名譽の徽章を佩ばしむ可く、(十三)前掲貧民の父は此の最も神聖なる葡萄園に於いて勞作し、之れを耕耘せんとする偽らざる彼れ等の意向の證據として、其の加入に際して貧民の金庫に一百磅若しくは其の以上を支拂ひて其の加入の承諾を求むる、此の敬虔なる公共事業に於いて、神と彼れ等の王並びに邦家に奉仕せんとしつゝある者は何人と雖も、之れを彼れ等の團體に加入せしめ、彼れ等に等しき總べての權力及び特權を享有せしむるの自由を有す可く、(十四)彼れ等は現今治安判事によつて行使せらるゝ權能の外、彼れ等自身に屬する役員及び教區の役員に怠慢ある場合には貧民の爲めに罰金刑其の他の方法を以つて之れを處罰するの點に於いて比較的限定せられたる一定の權力を賦與せらるゝを得可く、(十五)彼れ等は、或る貨物の一手製造を

一定私人若しくは團體に既に授與し又は將來授與す可き總べての特許權を無視して、苟も彼れ等が適當と思惟する總べての製造業に貧民を就業せしむるの權利を有す可く、(十六)上記貧民の父の或る者の死亡に由りて生じたる總べての缺員は絶えず殘存せる者の選舉によつて補充せらる可きものなり。(Ibid., pp. 65-70)。

チャイルドは「貧民の父」に社會的尊嚴を與ふるに由りて、利潤獲得衝動に訴ふることをなくして、よく自己の計畫の實行せられ得ることを信じたるが如し。而して彼れは貧民によりて行はるゝ製造業が直ちに利潤を見るや否やは多く重要視するに足らざるものと觀たり。蓋し、國家の大任は第一に貧民をして乞食と飢餓とより免れしめ、而して勞働し訓練せられ得るものをして、爾後國家の有用なる成員たらしむるに存するが故なり。(Ibid., p. 75)。

彼れは商人的見地よりして「貧民の父」が直接の利潤を擧げ得ると否とを問はず、其の管理の下に行はるゝ製造業によりて國産をして外國市場に於いて其の地歩を確保せしむるの基礎を堅む可きことを熱望して止まざりしなり。

## 四

かのカール・マルクスによりて「經濟學史上の一奇觀」(ein wahres Phänomen)と稱せられたるジョン・ベラーズ(John Belers)の提案の如きも、吾人を以つて觀れば、畢竟ずるに此の偉大なるブルジョア、サー・ジョサイア・チャイルドの計畫をして更らに一歩を進ましめたるものに外ならざるなり。ベラーズは其の一千六百九十九年の著 *Essays about the Poor, Manufactures, Trade, Money, Plantations, and Immorality, with the Excellency and Divinity of Inward Light.* の表題頁の背面に於いて、チャイルドを以つて、英國の有したる「最富貴なる商人」と稱し、彼れを「最強大なる國王ウィリアム三世と「最も令名ある判事」サー・マシュー・ヘールの中央に置き、其の著書よりの拔萃を掲げたり。

ベラーズは教友派(Society of Friends)の一員にして、一千六百五十四年の交に生れ、三十才の頃、同じく教友派の信徒にして、久しくグロスターシヤのコールン・セント・オールドウインに在住せるフェッチイブレース家の當主、ガイルズ・フェッチイブレース(Gyles Fetiplace)の相續人たる三女の一人、フランセス・フェッチイブレース(Frances Fetiplace)と結婚し、義父の死後、其の妻の權利に依りて、グロスターの副僧

正及び僧會より借地として保有せる前掲コールン・セント・オールドウインの莊園、共同領主と爲り、其の生涯を諸種の研究と慈善事業とに委ね、一千七百二十五年二月八日ウォルブルックのセント・スチーヴン教區に於いて長逝せる人なり。

ベラーズは幾多の小冊子を著せるも、就中最も重要なるものは一千六百九十五年倫敦に於いて出版せられ、翌九十六年に復刻せられたる *Proposals for Raising a Colledge of Industry of all useful Trades and Husbandry, with Profit for the Rich, a Plentiful Living for the Poor, and a Good Education for Youth. Which will be Advantage to the Government, by the Increase of the People, and their Riches.* なり。而して本書中に現れたる彼れの計畫は幾分の相違を以つて其の後に現れたる彼れが幾多の小冊子中に再現せり。彼れの著作目録を掲ぐれば凡そ左の如し(1) *To the Lords and Commons in Parliament Assembled. A Supplement to the Proposal for a Colledge of Industry, Shewing a Regular Constant Employ for the Poor, is the best Foundation of Trade, and the greatest Improvement to the Nation, and Consequently support to the Government, whilst the want of it tends to the Poor's Misery, Poverty of the Rich, and Governments Weakening, 1696.* (1) *An Epistle to Friends concerning*



the Education of Children, 1697. (II) Essays about the Poor, Manufactures, Trade, Money, Plantations, and Immorality, with the Excellency and Divinity of Inward Light, 1699. (III) A Caution against all Perturbations of the Mind, 1702. (IV) Watch unto Prayen; or Considerations for all who profess they believe in the Light, 1703. (V) To the Lords and other Commissioners appointed to take care of the Poor Palatines, 1709. (VI) Some Reasons for an European State proposed to the Powers of Europe, by an Universal Guarantee, and an Annual Congress, Senate, Dyet, or Parliament, to settle any Disputes about the Bounds and Rights of Princes and States hereafter, 1710. (VII) To the Archbishop, Bishops, and Clergy of the Province of Canterbury met in Convocation, 1712. (VIII) An Essay towards the Ease of Election of Members of Parliament, 1712. (IX) An Essay towards reconciling the Old and New Ministry, 1712. (X) Considerations on the Schism Bill. (XI) An Essay towards the Improvement of Physick, in Twelve Proposals, by which the lives of many thousands of the rich, as well as of the poor, may be saved yearly. With an Essay for Employing the Able Poor, by which the riches of the Kingdom may be greatly Increased, humbly dedicated to the Parliament of Great Britain, 1714. (XII) To the Criminals in Prison.

(十四) An Epistle to the Quarterly Meeting of London and Middlesex, 1718. (十五) An Essay for employing the Poor to Profit; dedicated and presented to the Parliament, 1723. (十六) To the Yearly, Quarterly, and Monthly Meeting of Great Britain and elsewhere, 1723. (十七) An Abstract of George Fox's Advice and Warning, to the Magistrates of London, in the Year 1657, concerning the Poor, with some Observations thereupon, and Recommendations of them to the Sincerely Religious, but more particularly to the Friends of London, and Morning-Meeting of these times, 1724. (十八) An Epistle to Friends of the Yearly, Quarterly, and Monthly Meetings concerning the Prisoners and Sick, and the Prisons and Hospitals of Great Britain, 1724.

## 五

デラームの提案は彼れが最初の著の表題に示されたるが如く、富者には利潤を、貧民には豊かなる生計を、又、青年には良き教育を興ふる凡ゆる有用なる職業及び農業に關する産業學校を設立するに在るものにして、著者は之れを以つて、人民及び其の富の増加に由りて、政府の利益たる可きものと觀たり。而して彼れは表題頁にモットーとして「勤勉は豊富を齎す」の語を掲げ、更らに「不精者は襁褓を纏はし

めらる可し。働かざる者は食す可らずの二語を添へたり。此書の初版は著者と同派の宗徒、即ち嘲つてクエーカー教徒と名付けられたる光の子達に献ぜられ、再版は貴衆兩院の議員に捧げられたり。

彼れの計畫は、土地に對して一萬磅、家畜其の他の資本に對して二千磅、工業労働者の爲めの設備、道具等に對して三千磅、合せて一萬五千磅(再版は是れ等のものに建築物に對する三千磅を加ふ。Ibid., ed. 1896, p. 8.)の資本を投入して、健全なる身體を有する三百の人々より成る植民地若しくは彼れの所謂「學校」を建設せんとするに在るなり。此の學校は管理者(Governor)及び副管理(Deputy) 各一名、靴工二名、裁縫職三名、麪麪焼人一名、醸造職一名、屠夫一名、家具職一名、理髮師一名、醫師一名、リンネル職工二名、羊毛職工二名、料理人四名、庭師四名、鞣皮工一名、獸皮職一名、調亞麻工及び製絲工二名、脂蠟燭製造人一名、石鹼製造職一名、帽子製造職一名、無縁帽製造職一名、大工及び指物師二名、煉瓦職及び仕事師二名、桶匠一名、鍛冶工二名、留針製造職一名、針製造職一名、食事方及び倉庫管理人二名、合せて四十四名の職人、婦人、管理者及び同副管理各一名、寢臺係六名、保母看護婦六名、洗濯方六名、家屋掃除婦四名、

衣服を仕立て修復する女裁縫師(Sempsters) 六名、靴工編工又は織工五名、靴下用の紡績工及び梳刷工二名、リンネル紡績工及び梳刷工二十名、羊毛紡績工及び梳刷工二十名、搾乳婦五名、合せて八十二名の婦人及び少女、執事及び其の夫人都合二名、耕夫三名、耕童三名、打穀者四名、牧羊者三名、家畜の爲めの農夫三名、籬師及び人夫六名、合せて二十四名の農場労働者、總計一百五十名の労働は此の學校の所要全部を供給す可く、尙ほ各人十五磅の収益を以つてする他の十人の仕事は一ヶ年百五十磅の燃料、鐵其の他を供給し、更らに各人十五磅の収益を以つてする他の五名の仕事は、一ヶ年七十五磅の家賃を供給し、更らに各人十五磅の収益を擧ぐる更らに他の三十五名の労働は一ヶ年五百二十五磅の食料、飲料其の他を生産する農場の地代を供給す。是れ等五十人の人數を前記一百五十人に加ふる時は總計二百人と爲る可く、殘餘の一百人が各人一ヶ年十磅の収益を擧ぐるものとすれば、年々の利潤は一千磅なる可きも、ペラーズは各人の収益を十五磅と評價するが故に一千五百磅の利潤を見ることゝ爲る可し。(Ibid. pp. 5-6.)

即ち彼れの計畫に従へば、此の産業學校に所屬する者の一定部分の労働により

て全校は維持せられ、爾餘の者の勞働より生ずる利潤は此の學校の創立者によりて貸與せられたる金額に對する利子として支拂はるゝなり。

## 六

吾人は屢々ジョン・ベラーズが社會主義的思想家と看做されたるを觀る。

彼れの Proposals は凡そ一千八百十七年の頃、英國急進派の政治家フランシス・プレイス (Francis Place) によりて偶然發見せられ、二世紀半以前にロバート・オーエンの社會觀を唱道しつゝありしものとして、直ちにオーエンに提示せられ、オーエンは此の書を請ひ受け、其の複刻一千部を印刷して、普く之れを江湖に配布し、這般の觀念を創始せるの名譽を其の著者に與ふ可きことを約せり。(The Life of Robert Owen by Himself, with an introduction by M. Buer, 1920, p. 331.) 聽がてオーエンは一千八百十八年、此の書を其の New View of Society 中に複刻して、其の約を履行せり。更らに是れよりして五十年を隔て、カール・マルクスは其の「資本論第一卷に於いて」早く既に第十七世紀末に於いて、ベラーズは相反する社會の兩極端に於いて、榮養過多と瘦削萎縮とを生ぜしむる現在の教育法と分勞を廢止するの必要を極

めて明確に認めたりと稱し。(Das Kapital, Kritik des Politischen Ökonomie, Bd. I, 1921, S. 454.) 修正派のマルクス主義社會主義者エツアルト・ムルンシュタイン (Ed. Bernstein) はカール・カウツキー (K. Kautsky) 等々の共著 Die Geschichte des Sozialismus 中の Die Vorläufer des Neueren Sozialismus の第一編第二章第五節 Kommunistische und demokratisch-sozialistische Strömungen während der englischen Revolution des 17. Jahrhunderts. 第十二節第五項に於いて、ジョン・ベラーズを評論し、スタムハンマー (Josef Stummhammer) の Bibliographie des Sozialismus und Communismus, 1893-1909. 第三卷は彼れの著者兩部を掲げたり。(a. a. O., Bd. III, 1903, S. 26.)

洵にベラーズの提唱する農業及び工業共同團體の内部に於ける生活は或る程度まで共產主義的なり。而も斯くの如き共同團體が眞に共產主義的のものに非らざることは、之れを建設するの費用が、富者の出資によりて調達せられ、之れに對して配當を與ふるの一事によりて明かなる可し。固より是れ等の共同團體、即ち彼れの所謂「學校内」に於ける樂しき生活は、勤勉なる勞働者に對する富者の負擔たる可きものにして、彼れ等に對する富者の慈善たる可きものに非ずと説かるゝと

雖も、而も彼れ等貧民をして樂しき生活を送らしめたる後の餘剰は、資本に對する利潤として富者の懐に歸す可きものなり。

ペラーズは前述せるが如き二百人の勞働を以つて三百人に對して總べての必需品を支給すると做す彼れの計算が大過あるものに非ずと信ず。蓋し、一國民に就いて觀るに、有用なる勞作者は其の三分の二以上に出づることなく、恐らくは其の二分の一に過ぎざる可しと想定せらるゝに拘らず、尙ほ總べての者は皆生計を營みつゝあるが故なり。加之ならず、此の共同團體は(一)小賣商(二)總べての無用なる諸職業、並びに是れ等の兩者の雇人及び從者の一切(三)訴訟事件(四)不良なる債務(五)不廉なる買物(六)仕事の缺乏より生ずる時間の喪失を免れ(七)多數の婦人及び兒童を生産的勞働者たらしめ(八)乞食を廢し(九)居室(十)薪炭(十一)調理、醸造及び麵麩製造に於いて、又(十二)製作及び食料の持ち運びに於いて多くの費用を節約し、(十三)製作に際して傷物と爲れる衣類に對して購買者を看出す等の利益を有す可し。而して更らに之れに加ふに、(一)彼れ等は工業と農業の結合より生ずる便益を收む可く(二)大多數の穀産地方に於けるよりも更らに多くの家畜を飼養し、斯くて又耕地

は更らに多くの肥料を施さる可く、(三)現今多くの土地は地主若しくは借地人が他の一方の爲めに之れを行ふことを欲せざるか若しくは之れを行ふこと能はざるが故に耕作せらるゝことなきも、此の共同團體は是れ等孰れの困難をも有することなかる可く、(四)收穫時に際しては、常に農場勞働者のみならず、總べての技工は進んで之れを援助するの利益を有するなる可し。(Ibid. pp. 7-8)。而して斯くの如くして生ずる莫大なる利益は皆、此の植民地の出資者に對する利潤を増大するに資す可きものなり。

## 七

諸掛りを悉く控除したる後、斯くの如き企業に對して生じたる利潤は出來得る限り、土地を買入れ、之れに資本を投じ、種々なる職業を起すに必要なものを備へ、新建築を行ひ若しくは舊き建物を修繕するが爲めに使用せらる可きものとす。斯くの如くして賃子を支拂ふ可き金額を調達する困難を免る可く、創立者等は彼れ等にして欲せんか、此の學校よりして更らに多くの財貨を享くことを得可く、而して此の企圖が充分なる發達を遂げずして失敗に終るの虞れあらざる可し。

資本は毎年評價せられ、利潤は分割せらる可きものとす。自己の受く可き利潤を引き出さんことを欲する者は、年々之れを取得するを得可きも、そを引き續き學校内に留めんと欲する者は之れを元本として加ふることを得可し。而して凡ゆる善事を滅却せしむ可き株式賣買は防遏せらる可し。若し或る者が其の持分(Interest)を賣却せんとするの意ある時には、爾餘の株主は、最後に計算せられたる價值を以つて、多數決によつて購買者を定むるの權利を有す可きものとす。最少限の醵金は二十五磅なる可く、五十磅若しくは一百磅毎に細則の制定、役員の選舉に際して一票を有す可きも、何人も五票以上を有すること能はざる可し。年一回、十二名若しくは其の以上の株主は委員に擧げられ、臨檢役及び顧問役たる可きものとす。管理者も下役も何等俸給を受くることなく、單に此の學校が彼れ等に與へ得る相當なる物質上の安慰を有す可きものとす。懲治は笞撻を以つてせずして、寧ろ減食其の他を以つてす可し。更らに大なる刑罰に相當する者は放逐せらるゝか、若しくは學校外の懲治檻に送らる可し。斯くの如き人物を學校内に留めざる理由は第一に此の學校をして餘りに多く懲治檻(Bridewell)の臭味を帶ばしむ

ることを惧るゝと、第二に是れ等の人々が青年に悪感化を及ぼし、之れを墮落せしむるを憂ふるに在るなり。凡そ事は始初善しきを得ざれば充分なる成功を遂げ得ざるの虞れあるが故に、國家をして周到なる注意を以つて最初の勞作者を求めしむ可し。單に一州に於いて善良なる人物三四名を看出すを得ば、亦は彼れ等の後繼者を醗酵せしむ可き酵母たる可し。爾餘の者は最初は徒弟より成るを得可し。最初使用するの必要ある高よりも遙かに以上に應募ある時は、各人の拂込は其の豫約高の一部たる可し。(Ibid., pp. 8-10.)

## 八

ベラーズの唱道せる貧民授産の方法が、失業を救済し、窮民に職を與ふるが爲めに、當時他の諸家によつて提唱せられたる計畫と相違する主要なる點は、他の著者が多く繊維工業、其の他の製造工業に貧民を使傭せんとしつゝあるに對し、彼れは寧ろ荒蕪地及び未開墾地の開拓に之れを使用せんとするに存す。彼れは一千六百九十九年の著 *Essays about the Poor, Manufactures, Trade, Money, Plantations and Felons.* に於いて、彼の提案にして廣く採用せられんか、其の與ふる大利益の一は食料供給

の増加に存す可きことを主張せり。彼れは實に其の計畫を以つて工業對食料の問題に答へんとするなり。而も彼れの期する所も、結局に於いて當時の一般マーカンチリストと等しく國富の充實及び増加に存せり。

而して彼れも亦、自國の凡ゆる産業中心地に工業的共同仕事場を建設す可きことを説けり。即ちコールチェスターには長毳粗羅紗(Bayes)及び堪久毛織(Perpetuanoes) Taunton (Tauntonの誤植?)にはセルヂ、ストロードにはクロース、デヴォンシャーには粗羅紗(Kersies)の其れの如き即ち是れなり。ベラーズは唯だ單に必要勞働と餘剩勞働との割合を明瞭ならしむるの目的を以つて、先づ前述の如く三百人より成る共同團體を想定せるも、然も這般の團體は更らに之れよりも著しく大なるを得るものにして、特に前掲諸地方に於ける「學校」は其の人員三千人若しくは其の以上に達することを得可し。其の他尙ほ海岸には最も有效なる漁業に關する諸學校の設立を見る可し。是れ等諸種の學校は孰れも其の使用する所よりも製造品及び有用品を三分の一若しくは其の以上多く生産するが故に、是れ等の餘剩は其の設立者の間に分割せられ、學校内に於ける更らに多くの人々の爲めに備へ、土

地を購入開墾し、建築を行ひ、外國貨物を誘致し、又後述するが如く學校内に於いては殆んど使用せらるゝことなき貨幣に對して賣却せらるゝなり。(Ibid., pp. 10-11.)

有産階級の子弟も亦、此の「學校」内に寄宿せしめられ、總べての有用なる學問を授けらるゝを得可し。彼れ等は他人の仕事を行ふを見て、其の餘暇に於いて、遊戲に代へて、一定の職業を學ぶに至る可し。蓋し仕事は遊戲よりも以上に勞働たることなきが故なり。他人の仕事に従事するを見て、之れを眞似ぬるは兒童に取りては恰も遊戲に等しき慰みたる可く、开は又彼れ等をして長ずるに及んで營業に従事せしむるの習慣を學ばしむ可し。之れが缺乏は幾多の有望なる若木をして不善を行はしめて之れを凋落せしむ。「怠惰なる學修は怠惰を學修するに比して殆んど優る所なきなり」。(Ibid., p. 12.)

此の最後の章句の如きはカール・マルクスによりて其の「資本論」中に引用せられたる所なるが、(a. a. O., S. 517.) 吾人は這般の利益が特に斯くの如き施設によりて其の設立者及び富者に與へらるゝ利益の一として提示せられたるものなることを記憶せざる可らず。

## 九

固より此の共同團體に屬する貧民(the Poor Collegians)の受くる利益も亦大なり。彼れ等は健康時に於いても、疾病に際しても、獨身の場合にも、結婚の生涯に於いても、自己に取りても、其の妻子に對しても、總べての所要物を享有することを得て貧困を免れ、富裕と爲る可し。而して親の死したる場合には彼れ等の子女は十分に教育せられて、困窮に陥るの虞れなく、而して現在に於いては防遏せらるゝの常なる彼れ等の結婚は獎勵せらるゝなり。(Ibid., pp. 12-13.)

現在の世界に於いては、各人は其の肉體的勞働の外に、第一には自己と家族の爲めに備へ、第二には其の隣人が彼れより購入し、彼れに販賣するに際して彼れを欺瞞するの陰謀に對して警戒するが爲めに絶えず二重の注意を拂はざるを得ず。然るにペラーズの提唱する「學校内に在りては、各人の注意は唯だ單に安易なる日々の仕事を行ふの一點に歸せしめらる可く、彼れ等は又外部に於けるよりも學校内に於いて更らに多くの物質上の慰安を有するなる可し」(Ibid., p. 13.)、生活及び交易の通態に在りては、人々は不廉なる買物、不良なる債務若しくは裁

判沙汰によりて屢々彼れ等の取得せる所のものゝ半ばを失ふも、此の「學校」に於いては是れ等のものは孰れも其の存在を見ることなかる可し。而して大地にして單に其の果實を生じ、仕事を行ふ者にして單に彼れ等の本分を盡さんか、彼れ等は富裕と爲る可し。然るに之れに反して現在に於いては農夫は大なる收穫を擧げ、職人は克く勉めて多くの製造品を生産するに拘らず、屢々是れ等の兩者は零落せしめらるゝことあるなり。標準たらしめらるゝものは貨幣にして勞働に非ざるが故に、農夫は彼れの收穫が先きに其の二倍の價格を生じたる時と等しく、地代及び賃銀を支拂ひ、職人を支持する者が彼れの貨物を欲望する者に非ずして、之れに代へて貨幣を彼れに與ふることを得る者なる場合に於いては、彼れ等職人も亦農民に比して毫も優る所なし。而して彼れは貨幣を有することなき他の者が勞働を以つて彼れに與へ得可き價值の半ばを貨幣を以つて取得せざるを得ざる場合頗る多し。(Ibid., p. 13.)

斯くの如きペラーズの所論に據つて、エヅアルド・ベルンシュタインは彼れに於いてサー・ウィリアム・ペチイが其の一千六百六十二年の著 *A Treatise of Taxes and*

Contributions. に於いて表明せる労働價值觀念を實行に移さんとせる最初の社會主義者に遭遇すると稱し (Die Vorläufer des Neueren Sozialismus, a. a. O., S. 704) マンクス・ペーア (M. Beer) は彼れを以つて貨幣に代へて労働時間を交換の手段たらしめんことを提唱せるロバート・オーエン (Robert Owen) 及びジョン・グレー (John Gray) に先鞭を着くるものと觀たり (A History of British Socialism, vol. I, 1920, p. 76.)。

洵に彼れは貨幣の國家に於けるは、恰も松葉杖が跛と爲れる人體に取りて必要なるに等しさものと觀る。一國は健全なる状態に在りては、健康體が松葉杖を要求せざると等しく貨幣を要求することなし。彼れ曰く、此の團體 (College-Fellowship) は労働を以つて總べての必要品の評價せらるゝ標準たらしめ、貨幣を以つてすることなし。而して貨幣は信用の缺乏に對し人々の間に於ける質物たるが故に、生活の常態に於いては其の便益を有すると雖も、而も其の禍害を有せざるに非ず、而して我れ等の救世主によりて「不正なるマンモン」と稱せられたり。大多數の詐欺及び強奪は貨幣の爲めに行はるゝに非ざれば、恐らくは遅々として行はれたるに過ぎざる可しと。 (Proposals, op. cit., p. 3.)。吾人は斯くの如きペラーズの所言

を聞くの時、前掲諸家の所説を肯定せざるを得ざるが如し。然れども吾人は更らに深くペラーズの所言に就きて稽ふるの時、彼れの意見とオーエン等第十九世紀思想家の其れとの間には甚しき根本的相違の存することを認めざるを得ず。

オーエンは、利潤を以つて、人間の墮落を誘ひ、彼れをして樂園より放逐せらるゝに至らしめたる禁制の果實と觀る。彼れは競争と利潤とを以つて不可分のものと思惟す。一方を以つて戦争とするならば、他は戦利品に過ぎざるものなり。而してオーエンの意見に據れば、利潤獲得の用具たるものは金屬貨幣なり。利潤は常に貨幣の形態に於いて實現せられる。貴金屬の價值に基礎を有する貨幣は、交換に際して、貨物の眞價值の間に存する關係を混亂せしむるの助けと爲るものなり。爰に於いてか、オーエンは貨幣に代へて、財貨を生産するに要したる時間を基礎とせる労働券を以つて、交換の媒介物たらしめんとするなり。

ジョン・グレーは又、生産は需要の原因にして、労働は價值の唯一の尺度なりと做すの原則に基きて、窮乏に對する救済を貨幣制度の變革に求めたるなり。彼れは物々交換が社會の基礎にして、物々交換本然の原則が労働の等量の交換に存し、從



つて又唯一の正當なる交換の媒介物が勞働券にして、金銀に非ざることを主張するなり。

然るにペラーズに在つては、彼れが勞働を以つて貨幣に代へんとする主たる理由は、以上吾人の引用せる章句に次いで彼れ自らの物語るが如く、「人民が全然貨幣による賣買に依頼する際には、彼れ等は貨幣の缺乏若しくは悪化によつて、殆んど全く破滅の境涯に陥るの事實に存せり。而して貨幣缺乏の場合には富者は食料及び衣料を供給す可き土地及び人力を有するに於いて従前と異なることなしとするも、彼れ等は貧者を使傭す可き何等の貨幣をも有せざるが故に、貧民は無爲の狀態に止らざるを得ざるなり。彼れを以つて觀れば、是れ等のものこそは一國の眞の富にして、吾人はギニーに於いては玻璃珠及び鑪粉 (pin-dust) に代へて金を取得し得るが故に、吾人が是れ等のものを斯く看做し得るに非ざれば、一國內に存する貨幣は眞の國富に非ざる可し。(Ibid., p. 3.)」

吾人は他の機會に於いて、第十七世紀の英國實業家が實際に貨幣の不足より生ずる不便と不利とを痛感し、通貨の缺乏が商業の萎靡、産業の不振、事業の經營難、貧民の失職を生ぜしむるの虞れあることを憂慮し、金銀以外に貨幣の用に供せらる可きものを看出さんとする種々なる計畫を産するに至れることを述べたり。(三田學會雜誌「第二十四卷第五號所載拙稿「マーカーチリズムの重金思想に就いて」參照)。ペラーズの計畫も亦、斯くの如き時代の産物にして、勞働を以つて貨幣の職能を行はしめんとする彼れの意見は、貨幣不足の爲めに多數の人民を作業に従事せしむること能はざるの觀ある世相に動されて生じたるものにはあらざるか。

## 十

此の「學校」に於ける勞作者にして年老ゆる時は、一日一時間其の仕事が減せらるゝを得可く、而して六十才に達する時は、彼れ等は監督たらしめらるゝを得可し(彼れ等の功績によりて是れよりも早く任命せらるゝことなしとせば)。开は彼れ等をして輕易なる仕事を行ひて愉快なる生活を送らしめ得る點に於いて、私財の貯蓄と同一の效力ある可く、而して喪失の危険少なく、之れに對する注意を要するところなき點に於いて之れに優るものある可し。(Proposals, op. cit., p. 13.)

ペラーズ曰く、肉體的勞働に關しては、人は其の前額に汗して彼れの麵麩を食せ

ざる可らずとは正に神の最初に定めたる掟なり、労働が肉體の健康に必要なは、恰も食が其の生活に必要なが如し、何となれば或る人が安逸によりて免るゝ苦痛は疾病に於いて看出さる可きが故なり」と。(ibid., p. 14)。

現世的懸念の減少、安易なる誠實の労働並びに宗教的訓示を以つてする此の「學校内に於ける正規的生活は之れをして徳の養成所たらしむ可く、斯くて學校内に於ける貧民は幾分原始基督教團に類する共同團體たる可し」。(ibid., p. 14)。

然れどもペラーズの提案は本來、原始基督教團の如く、精神的一致を有する共同團體に非ず。彼れは一方に於いて其の提唱する所のものに對して「勞作場」(Work-house)なる名稱を排すると同時に、他方に於いて「共同團體」(Community)なる言葉を使用することを避けたり。「勞作場」なる語は、地位ある人民をして其の兒童を送りて教育せしむるが爲めには、隷屬を暗示すること餘りに多きに過ぎ、又、正直なる職人をして之れを愛好せしむるが爲めには、懲治監を暗示することを餘りに多きに過ぐるものあるが故なり。而して「共同團體」なる名稱は彼れの特に選べる「學校」なる語の意味するよりも、更らに大なる精神の一致を含蓄するものにして、斯くの如

き大人と子供の混成的集團に對して使用せらるゝにはさまで適當のものに非ず。「學校」なる語は内心的なる組合よりも、内部的なる團體に關すること多きものなるが故に、之れに比して優るものなり。(ibid., p. 26)。

## 十一

彼れは一千七百十四年の著 *An Essay toward the Improvement of Physick* に序して曰く、「職なき貧民は磨かざる金剛石の如く、其の價值は未知なり。然るに規則正しく労働しつゝある人民は國家の最大なる財寶にして、又、力なり、蓋し労働者なくしては、如何なる領主も存在すること能はず、而して若し貧困なる労働者が自己を支持する所のものよりも遙かに以上に食料及び製造品を生産することなしとせば、總べての紳士は労働者と爲り、而して凡ゆる懶惰者は餓死せざるを得ず」と。

斯くの如き所言のみを取りて觀る時は、ペラーズは實に、餘剩價値を創造する労働者が、富者によりて其の創造せる所のものを騙取せらるゝと做すの意見を主張しつゝあるものゝ如し。

然もペラーズの目的とする所は、富者によりて行はるゝ搾取の不正を非議する

に存せずして、整然たる貧民労働の使備によつて、國家及び富者の手に歸す可き餘剩價值を増加せんとするに在るなり。

即ち彼れは貧困なる労働者が何等の餘剩價值をも生産することなしとせば、總べての紳士は労働者となり、凡ゆる怠惰者は餓死せざるを得ざることを痛烈なる語氣を以つて述べたる後に於いて、直ちに曰く「秩序なく雜然組み合されたる最良なる建築材料は、其の整然配置せらるゝまでは、碎屑に比して殆んど優る所なきものなり。又、最良なる馬匹も未だ馴らさるゝことなくして牧場に在る間は、無用の贅物に過ぎず。人類も亦、彼れ等が規則正しく且つ有用に使用せらるゝまでは同じく無用の長物なり。而も規則正しく且つ有用に使用せられたる凡ゆる人は皆、國家の價值に對して二百磅若しくは其の以上を加ふ、蓋し人民なき土地は何等の價值なきが故なり。而して這般の財寶は貧民なり。而も其の光輝と價值とを發現せしめんが爲めに是れ等の未だ仕上げを経ざる金剛石を研くは我が大政治家及び元老院議員の熟慮と努力とに値すること大なる問題なり」と。(Ibid.)

彼れは國內に七百萬の人民ありと假定し、而して其の十四人中の一人、即ち五十

萬の男女及び兒童は、仕事を欲せざるか、若しくは仕事を缺くものと看做し、是れ等の人口が平均一人一日六ペンスを取得し得可きものと考ふる時は、一日一萬二千五百磅、一週七萬五千磅と爲り、彼れ等をして無爲に終らしむるの結果は、國家に對して一ヶ年三百九十萬磅の損失を生ず可く、而して之れに對して、教區税及び貧民に對する他の給與一週一人十二ペンスを加ふる時は、一年百三十萬磅に達す可く、總計、國家に對する負擔は、一ヶ年五百二十萬磅に上る可きものと計算せり。(To the Lords and Commons in Parliament Assembled, A Supplement to the Proposal for a Colledge of Industry, op. cit., p. 1; An Essay toward the Improvement of Physick, op. cit., p. 40.)

斯くてベラーズは、貧民の不幸を救ふと共に、這般の國家的損失を免るゝが爲めに其の共同團體の計畫を唱道するものなり。而して彼れの提唱する共同團體の内部は金銀貨幣の行はれざる共產主義的社會なり。然れども斯くの如き共同團體の外には、彼れ等の労働の所産より利潤を獲得しつゝある資本家の存在するを見る。資本家の出資に俟つ彼れの「産業學校」案は、同時代の公設授産所の計畫よりも、却つて「社會主義的分子」少なきものなり。彼れ等資本家の眼には、此の共同團體

の建設は、其の搾取す可き餘剰價值を増加す可き手段方法として映ずるなるべし。ベラーズは利潤の企業に對するは、恰も汁液の樹木に對するに等しきものと觀る。そは其の成長を助け、又之れをして活力を維持せしむ。彼れは言ふ、労働者は、人々をして富裕ならしむるものなるが故に、労働者にして愈々多ければ、愈々多くの富は存す可し、労働者を使用し、又彼れ等の爲めに備ふ可き土地の存する所に於いては」と。彼れは人間に役立つに過ぎざる穀物及び家畜を産出するに致々汲々たる世界が、人間其の者の増加を等閑に附し、否寧ろ防止するに努めつゝあることを怪めり。彼れを以つて見れば、貧民の増加は、彼れ等と共に物質上の安慰を増加せしむるが故に、斷じて重荷に非ずして利益なり。斯くて又、誠實なる勞作者が成年に達すると共に直ちに結婚するは、富者の利益たるなり。(Proposals, op. cit., p. 2.)

而して吾人はベラーズ其の人の言葉に據りて、彼れが當時に於けるマーカンチリスト流の見地に立ち、自國內に於ける現在の貧困なる懶民をして有用なる生産的人民たらしめ、彼れ等によつて生産せられたる食料及び製造品を海外に輸出し、以つて恰も、鑛山が西班牙に與ふるに等しき金銀財寶を英國に齎し、是れに由つて

國家を富強ならしめんことを企圖しつゝあるを見るなり。而してグロスターンヤに於ける莊園の所有者たる彼れは、其の農業植民地の計畫によりて、英國の土地が最大可能なる價值を發現す可きことを信じたるなり。彼れ曰く「歐羅巴に於ける土地をして亞米利加に於ける土地よりも、又和蘭の土地をして愛蘭の土地よりも、價值大ならしむるものは、人民の夥多なり」と。(Ibid., p. 20.)

吾人はベルンシュタイン等の解釋に反し、ベラーズを以つて、貧民自身の利益の爲めに、彼れ等の状態を改善せんとせるものと見ずして、富者に利潤を與ふることが、貧民に豊かなる生計を與ふることよりも以上に彼れの目的と爲れるものには非ずやと思惟す。彼れは、労働が富者の財寶たるが故に、貧民をして最も有利なる條件の下に勞作せしめんとせるに過ぎず。「我が労働人民を倍加せよ、然らば、吾人は吾人の有する貴族及び紳士を倍加し得るか、若しくは、又彼れ等の領地は其の現在に於いて存するよりも二倍の價值を有するに至る可し」と云ふものは實に彼れの主張の眼目たるなり。

ベラーズは屢々富者が他人の労働に依るの外、生活の道なきものなることを注

意せり。而も彼れは斷じて彼れ等をして水平主義者たらしめ、貧民と共に勞作せしめんとするの意志を有するものには非ざりき。(cf. Proposals, op. cit., p. 23)。彼れの計畫は熾烈なる社會革命的熱狂が鎮靜に歸して、詩趣なく光彩なき産業主義が國民生活を支配し始めたる時代の產物なり。

## 十二

斯くの如き團體組織による貧民搾取の提案はチャールズ・ダージェナントの其れに至りて一層露骨と爲れり。

彼れは既に其の *An Essay on the East-India Trade, 1697.* に於いて、毛織物業を發達せしむ可き自然の方法を以つて、健全なる法制に依り英國に於いて低廉に之れを製造し得るの手段を講じ、以つて全國民をして海外市場を支配するを得せしむるに在りと做し、英國に取り、羊毛をして十分なる價格を生ぜしむ可き唯一の有利なる方法は之れをして低廉に加工せしむるに存すと觀、歐洲に於ける如何なる國と雖も、英國の如く、凡ゆる財貨に對する製造費の高價なるものなしと論じ、(Ibid., pp. 20-21)。而して救貧法を以つて普く一切の英國製造業を滅ぼす害惡なりと做し、若

し立法部にして賢明なる法規を制定し、各教區に仕事場を建設し、勞働能力ある貧民を驅つて仕事に就かしめんか、洵に英國の製造業をして繁盛ならしむ可き多數の新たなる勞働者を誘致するを得可きことを痛論せり。(前掲拙稿「近世初期の失業對策と就業權論」三三頁參照)。

次いで彼れは其の一千六百九十九年の著 *An Essay upon the Probable Methods of making a People Gainers in the Ballance of Trade.* に於いて貧民を勞作せしむ可き具體的提案を行へり。(一)無力なる貧民を更らに良く扶持し、其の他の貧民を使傭し、仕事に就かしむ可き貨物及び原料を購入するが爲めの資本として三十萬磅の金額を應募し、拂込める人々は、此の王國の貧民を扶持し使傭することを目的とする社長及び會社の名によつて結合せしめられて、一個の公團體を形成せしめらる可し。(二)上述の社團は二十一個年を期限として設立せしめらる可きものなり。(三)前掲三十萬の金額は上述せる二十一個年の期限の間資本として存續す可く拂込まれ、而して前記の諸目的に投入せらる可きものとす。(四)上述の社團は彼れ等自身により、若しくは英國の凡ゆる教區に於ける代理者によりて——日より前記二十一

個年の期限を通じて前記——の——日以前に於ける——年の期間内に於ける總べての時に於いて行へると等しく、若しくは之れよりも優りて無力なる眞の貧民に對し良好にして十分なる扶持と歡待とを與ふ可し。(五)同社團は使備せらる可き人々に適せる十分なる勞働と仕事とを準備す可し。而して這個勞働しつゝある人々に對して、其の勞働に従つて、凡ゆる他の者が斯くの如き勞働に對して支拂ふ可き高の四分の三を超ゆることなき手當を與ふ可し。而して彼れ等が使備せられ、仕事に就かしめらるゝことなき場合には、斯くの如き人々は原料若しくは勞働が彼れ等の爲めに準備せらるゝまでは、無能力なる貧民として扶持せらるゝも、而も今後貧民簿に其の名を記入す可き人々は勞働し得るが故に、六ヶ月間は許可なくして此の社團の勤務を放棄することを得ず。(六)如何なる無能力なる貧民と雖も其の居住する教區の教會委員若しくは管理者に與へられたる書面の通告によるの外、其の居住する教區より移さるゝことなかる可し。(七)上記の如き方法に於いて、各教區の貧民に對して扶持が與へられざる場合には、該教區は扶持せらる可き其の貧民に命じ、而して該教區によつて前記の社團に對して行はる可き次ぎ

の支拂中より彼れ等によりて費されたる高を控除するを得可し。(八)前記社團は上述せる二十一個年間に、年々各教區よりして一千六百九十年三月二十五日より一千六百九十七年三月二十五日に至る七個年間に於いて徴收せられたる救貧税の平均額を收受するの外、凡ゆる教區に贈與せられたる總べての寄附法が貧民の使用に供したる總べての罰金並に教區によりて貧民扶持の爲めに徴收せらるゝの常なりし總べての他の金額をも收受す可きものなり。(九)貧民の爲めに備へ、懶惰なる浮浪の徒を處罰するが爲めに制定せられたる諸法は總べて撤廢せらる可く、而して有用と看做されたる部分を維持し、此の大事業の目的を有効に達成す可き他の制限、刑罰及び規定を附加するが爲めに一の法律を制定す可し。(十)此の社團と其れ其れの教區との間に發生することある可き一切の事項及び論争を決定するが爲めに各州に於いて適當なる人々の任命を見る可し。(十一)此の社團は凡ゆる公然の乞食に對して備へ、公然の乞食及び懶惰なる浮浪の徒に對して法を執行す可き義務あるものとす。(Ibid., pp. 57-67)。ダージェナントは斯くの如き方法によりて人民を保持、増加し、而して彼れ等の大多數をして有用ならしむるを以つて

英國をして貿易戦上の勝利者たらしむるに資するものと思惟せるなり。(ibid., p. 69.)

是れよりも稍や遅れて學校都市を建設せんとする最も精巧なる計畫がローレンス・ブラッドンによりて行はれたることは吾人が前掲「近世初期の失業對策と就業權論」中に於いて述べたるが如し。(同四〇—四二頁參照)。

斯くの如き時代的背景と類型の提案とによりて考ふるに、ペラーズは必ずしも「經濟學史上に於ける一奇觀」たるものに非ず、又、斷じて社會主義的思想家として論ぜらる可きものに非ずして、彼れの所論はマーカントリストの見地に立てる貧民勞働搾取策の一特殊形態として觀らる可きものなり。

ピグウ教授の産業變動論に就て

小 高 泰 雄

抑も、景氣理論は恐慌の分析的研究の結果、經濟社會の週期間變動原理に注目するに至つて初めて、恐慌論に於けるよりは、より大なる對象に向つて、而して全然新なる面目を以て、出現したものである。現今景氣理論として、或は、産業循環論として種々雑多の議論が提出せられてはゐるが以上の如く、景氣論が恐慌論の必然的所産であつた關係上、今尙其の舊殻を蟬脱する事なく、専ら興味を中心に恐慌に繋ぐか或は週期性其のもの原因關係を發見する事を以て足れりとし、此處に於て解決せらるべき問題其のものを明瞭し、分解し、之を統一し、他の學說と交渉ある箇所を明にし、之を批評し、之に適當なる地位を與へたるものは尠い。之に反してピグウ教授の産業變動論に於ては問題を三箇に分類し、第一産業變動を生せしむる所の短期間に於ける勞働の需要計劃を變動せしめる直接的或は第一次的諸原因、第二は、之等諸原因をして累積的發展を可能ならしむる所の條件、第三諸原因中産業變動を週期的に生せしむる所のもの分析換言すれば、週期性的原因としてゐる。而して、他の學說の主張する所が何れの部分に該當するかを暗示し、之を批評し重要性あ